

情報リテラシー教育と評価

学術情報リテラシー教育担当者研修

2013年10月16日(水) 大阪大学

2013年11月27日(水) NII

帝京大学総合教育センター 上岡真紀子

内容

- 前半：
評価の現状について確認し共有する
- 後半：
新たな改善方法としてインストラクショナル
デザインの手法を紹介

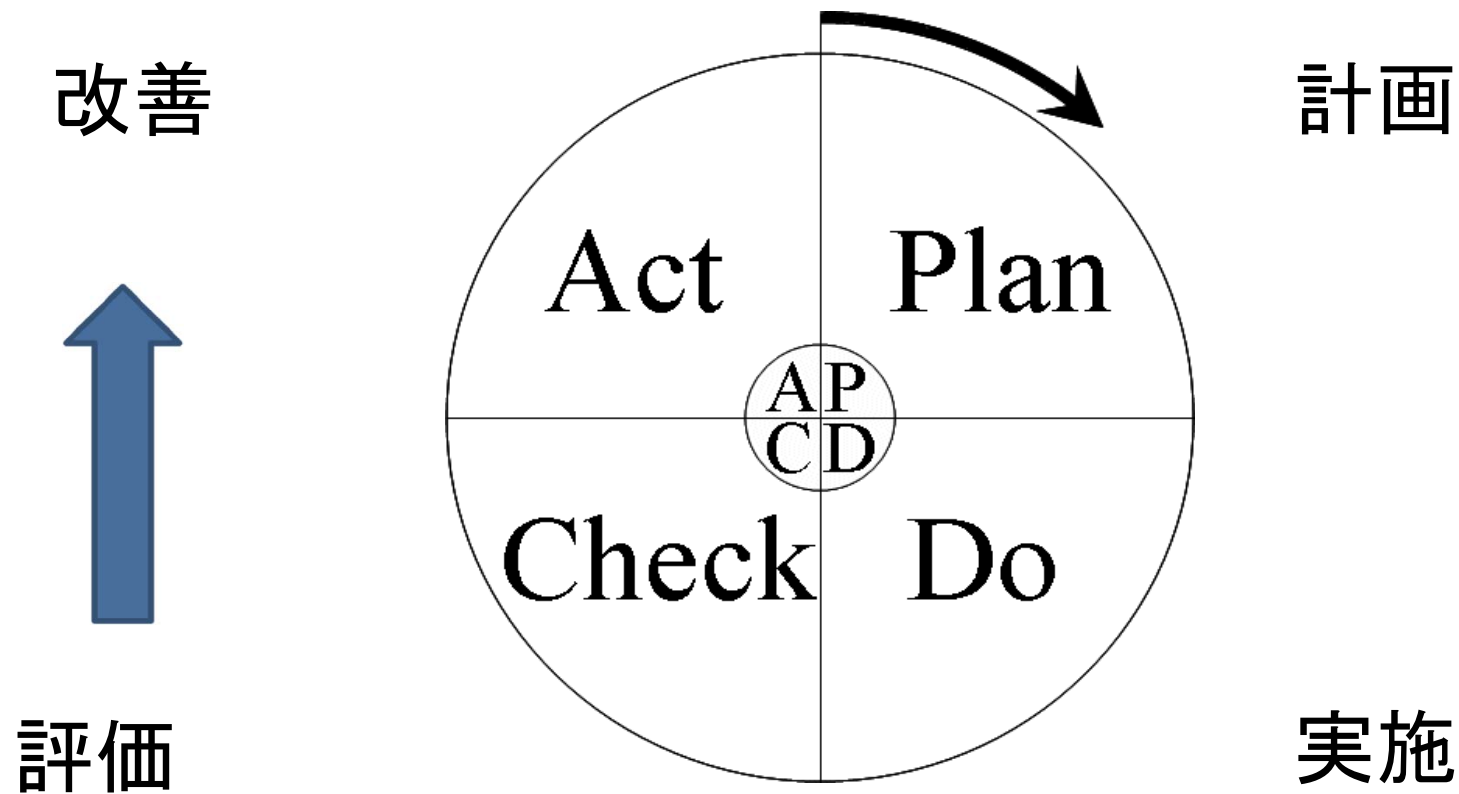
なぜ評価をするのか？

《改善》のため

- 変化する利用者のニーズに合わせてサービスを**改**
善していく



マネジメントにおける評価の位置づけ



どのように評価をするのか？

評価・改善をするためには 基準が必要

評価してもらうこと
(フィードバック)に
よって、改善点を見
出す



これまで評価してきたこと・・・

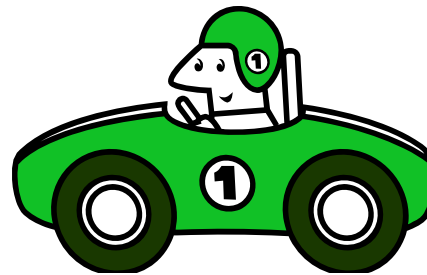
「良いか
どうか？」



利用者に聞く



- ・ニーズ調査
- ・満足度調査



「うまくできるか
どうか？」

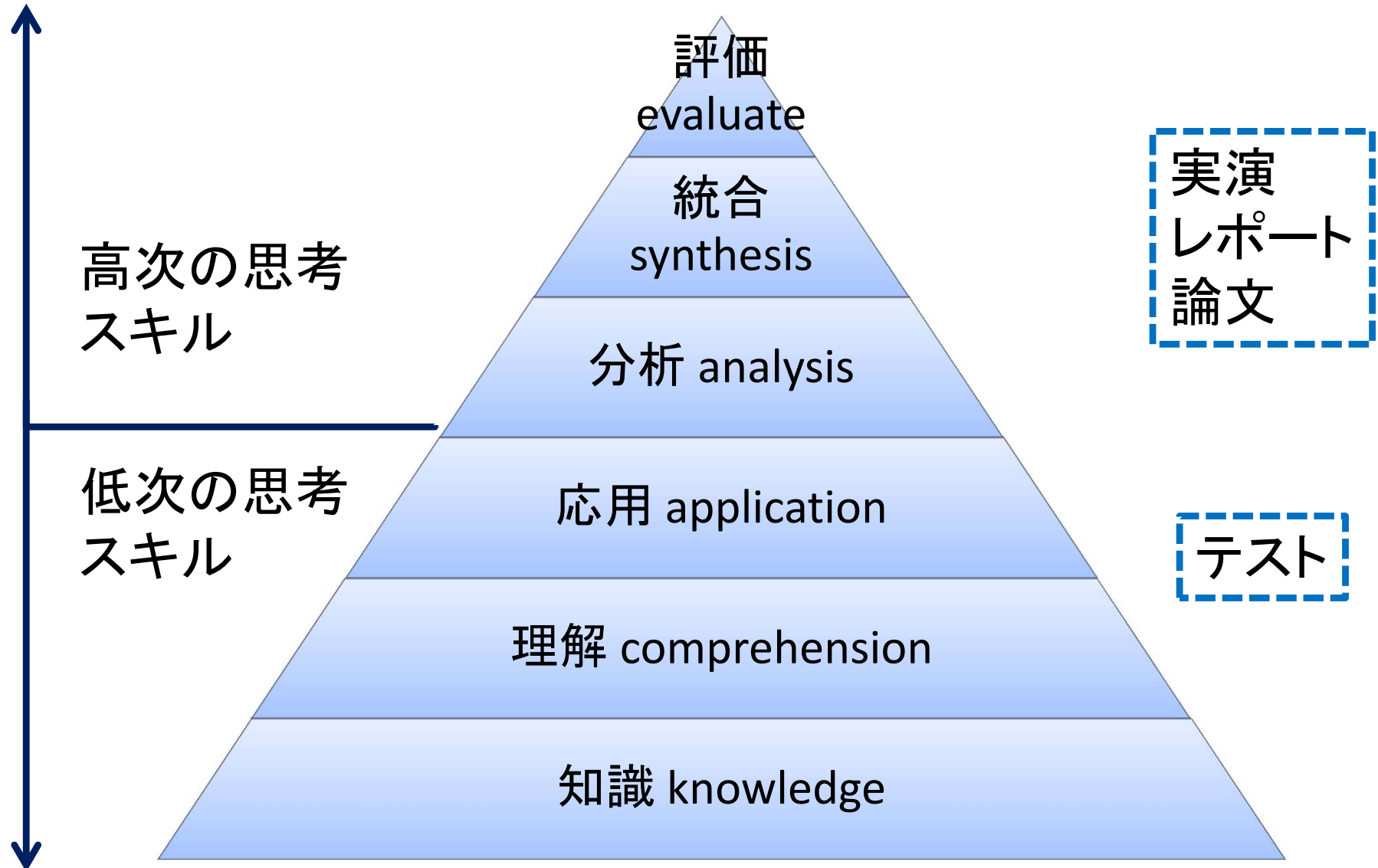


利用者に
やってもらう

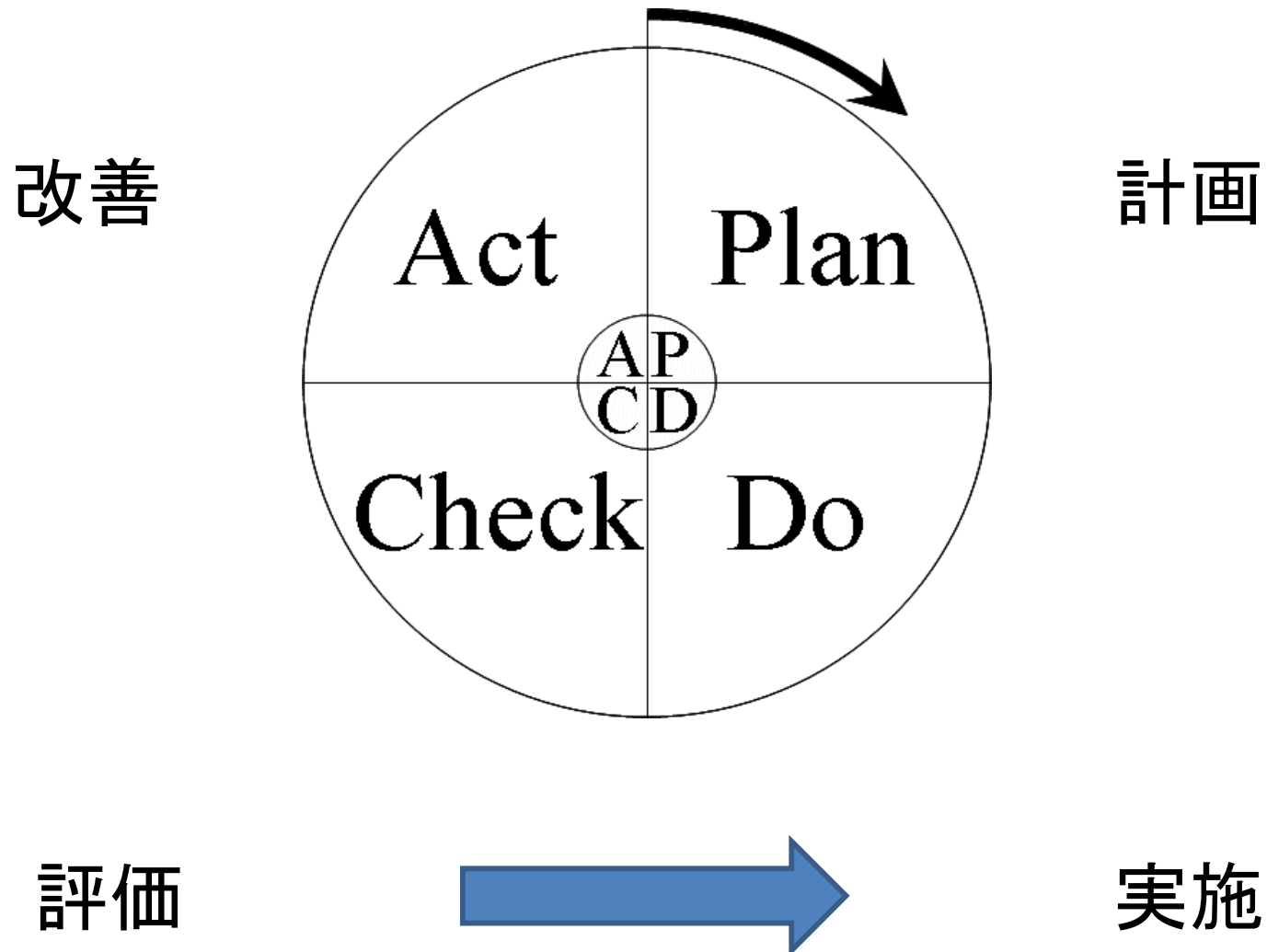


- ・パフォーマンス
評価

深い学び(高次の思考スキル) の評価は難しい

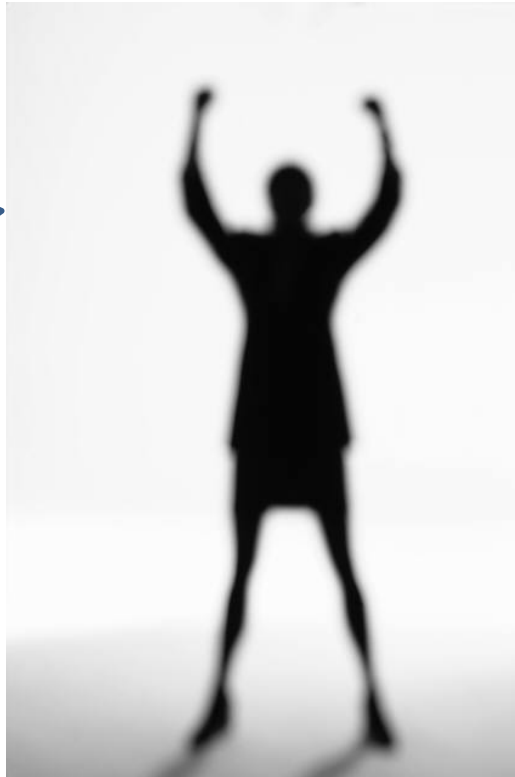


改善のために活動を見直す



評価・改善をするためには 基準が必要

評価する(してもら
う)ことによって, 改
善点を見出す



学習科学の知見
(なんらかの理論)
を活用して見直す

インストラクショナル・デザイン

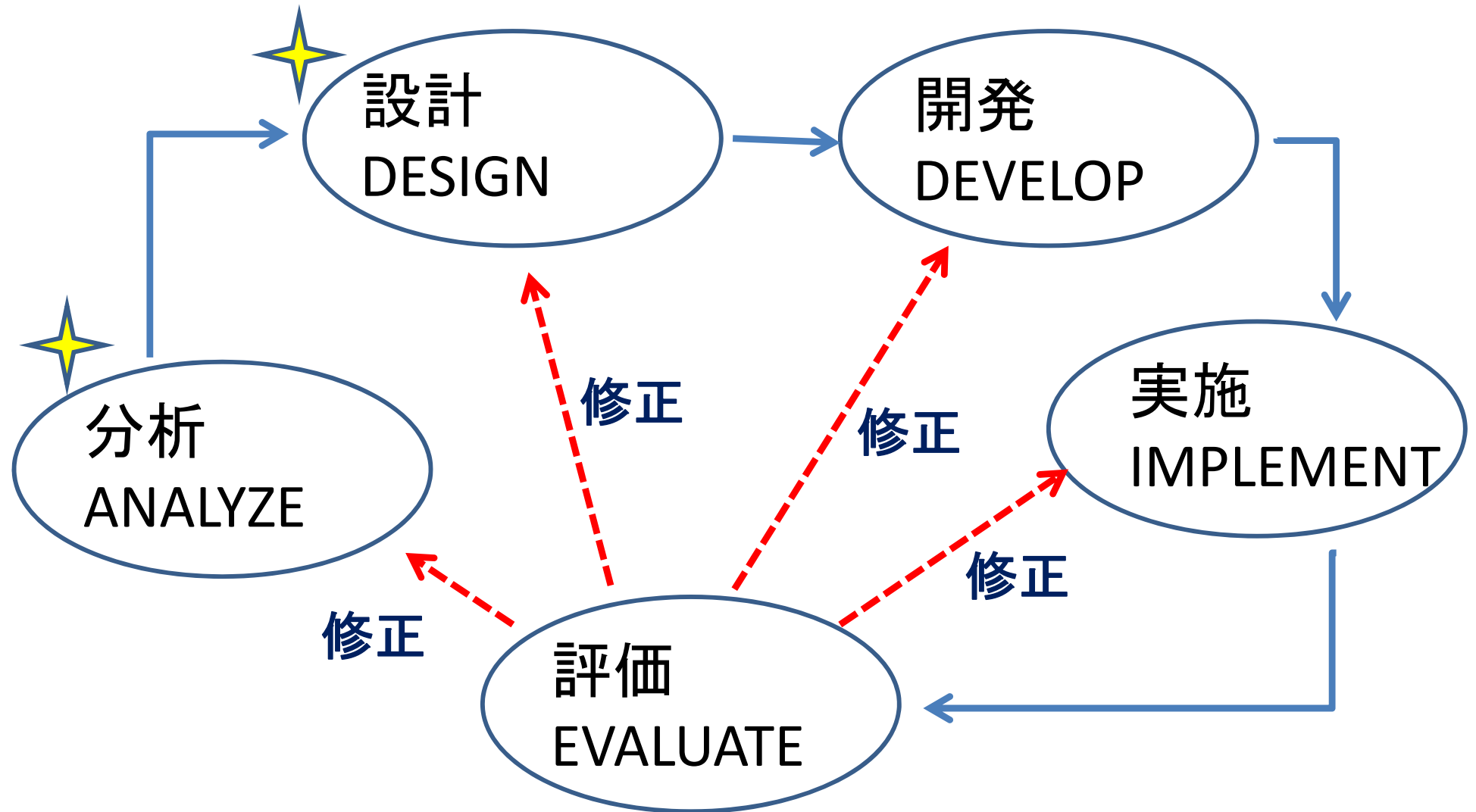
インストラクショナルデザインの 考え方

- 目的は学習プロセスを支援すること
 - 学習とは、学習者の認知・行動を変化させること
 - 学習科学の知見を活用
 - 成果を最適化するためにデザインが必要
 - デザインには、開発から実施、評価までが含まれる
-
- 授業設計の考え方
 - 一人でも、グループでもできる
 - 50分のセミナーから、カリキュラム作成まで

IDにおける評価基準

- 成果は、学習者が学習目標に達成したかどうかで判断される
- 学習目標(評価基準)がデザインの基準となる

ADDIEモデル



分析フェーズ

ステップ1 ニーズアセスメント

- インストラクションが必要なのは、教えようとしている知識や技能が学び手に欠けていて、かつ、教える理由(ニーズ)がある場合
 - そのインストラクションが本当に必要かを見極める

ニーズアセスメントの方法

- インタビュー(聞き取り), 観察, ログ
過去に収集したデータを再検討

情報リテラシー教育についての 学生の語り①

- 館内ツアー，OPACセミナーって知ってる？

「青いのにいつも貼ってませんか？ やってるんだと思うんですけど，参加はしていません。(なぜ?) ちょっとお堅いっていうか，**そこまでしてなのかな**っていうふうに思っちゃうし，ツアーだと**話が長い**だろうっていう，抵抗感があります。」

「趣旨がよくわかりません。その場で**わからなかったら聞けばいい**ので。」

わざわざ時間を
割くことじゃない

必要なときに
聞きたい

情報リテラシー教育についての 学生の語り②

- 「情報リテラシー入門(90分の講義)」はどうだった？

「正直出てない人の方が多かった。課題だけやって終わらせた人もいるし。私はなんだかよくわからなかったです。(内容が難しかった?)う～ん、**記憶にない**からそこまで**印象にない**のかな。**普通のことを言われた**記憶があります。」

「いきなり検索のコツみたいのがあって、課題も面倒くさくて、**そんなことしなくても別の方法で情報は得られるし、みたいな**感じで。**入門的なことすぎたのかなと。**」

「**図書館をより効率よく、本を検索できるように**ということだったら、**あれが限界**かなと思いますけど。」

メリットが(全く)
わからない。

すでに
知っている。

情報リテラシー教育についての 学生の語り③

- 「友達には大学に入って初めてレポートを書くという人が多くて、そういう人はレポートの形式に慣れていなくて全然分からないという人が多かったので、...」
- 「レポートは全然書いたことが無いので、相談とかは魅力ですね。」



レポートの書き方を
教えてほしい

- ①の解決策

わざわざ時間を割いてこなくても、知りたいときに知ることができるようにすること

→ ウェブ上にチュートリアルを作成して必要に応じて見られるようにしておく

ex) University of Washington 1”37

<http://guides.lib.washington.edu/content.php?id=55083&sid=1349232>

- ②の解決策

学生がすでに知っていること,

「キーワードを入れて検索する, 検索結果をクリックすると詳細な内容・・・」などのインストラクションは...

- ③の解決策

レポートを書く中での, 情報収集や情報の活用に
焦点をあてる

設計フェーズ

- ここでは、学生のニーズ・課題解決のために、何ができるようにになればよいのか = 学習目標を明確にし、その目標に基づいて、方法・評価方法までを考える
- 学習目標が定まると、

- 何が必要で、何が必要でないかが明確になる
- 必要なことだけに焦点を当てられるようになる
- 必要なことだけを、いかに工夫して教えればよいかを考えられる状態になる

ステップ2 課題分析

- 課題とは

望ましい行動が行われていないこと

→レポートを書くときに、情報収集に関連して問題になっていることは何かを考える

「レポートでネットばかり使われ、適切な情報源(学術的な記事など)が使われていない」

「コピーの横行」

課題を分類する

- 知識：知っている

レポートを書くためにどのような情報源があるかを知っている

- 技能：(やろうと思えば)できる

目録や索引データベースを検索することができる

-
- 遂行：実際に使う

レポートを書く際に適切に引用する

推定できる原因

解決策の案

知識

- ～を知らない
- ・レポートでは信頼できる情報源を使わなければならないことを知らない
- ・レポート課題に応じて、適切な情報源が存在することを知らない
- ・学術的な情報とはどのような情報かを知らない

- ・レポートでは信頼できる情報源を利用しなければならないことを教える
- ・レポートで利用できる情報源の種類と特徴を教える
- ・学術的な情報源とはどのような特徴を持っているのかを教える
- ・学術雑誌とは何かを教える

技能 (スキル)

- ～できない
- ・レポート課題に応じた適切な情報源が何かを判断できない
- ・情報(源)を評価して使えない

- ・レポート課題に応じて、適切な情報源が何かを判断する方法を教える
- ・情報(源)ごとに評価する方法を教える

態度 (動機づけ)

- なぜ～しないのか
- ・レポートにおいては適切に情報収集を行うことが重要であることを知らない
- ・レポートの課題として、学術雑誌を利用して書くことを明確に指示されていない
- ・自分でCiNiiを調べて書かなければならない課題がない

- ・適切に情報収集が行われているかどうかもレポートを評価する際のポイントであることを教える
- ・実際にレポート課題が出されている授業の中で行う
- ・学術的な記事を利用しなければならないことをレポートの条件にしよう

ステップ3 ねらい(目的)を決める

- インストラクションが有効なのは、「知識」と「技能」
 - 一つのセッション,あるいはコースで,
どの課題に焦点を当てるかを決定する
= 授業のねらい(守備範囲)

「レポートで使える情報源の種類と特徴を理解し,それらの信頼性を評価できるようになる」
ことを目的(ねらい)とした授業をする

ステップ4 学習目標を設定する

- ねらいは、学習者の問題状況の全体
 - その問題状況を解決するためには、学習者が何ができるようになっていけばよいのか、課題を細かく要素に分解する
- (複数の)学習目標

(1) 課題を細かく分解する

「レポートで使える情報源の種類と特徴を理解し、それらの信頼性を評価できるようになる」

- ・レポートでは、なぜ信頼できる情報を利用しなければならないのかを理解する
- ・レポートで使える情報源の種類と特徴を理解する
- ・レポートで使う際に、情報をどのように評価すればよいのかを理解する

(2) 抽象的な表現を具体的な行動にする

「レポートでは、なぜ信頼できる情報を利用しなければならぬのかを理解する」

→ レポートでは、なぜ信頼できる情報を利用しなければならぬのかを説明することができる

「レポートで使う際に、情報をどのように評価すればよいのかを理解する」

→ レポートで使う際に、使ってもよい情報と使ってはいけない情報を見分けることができ、その理由を説明することができる

科目名
対象
人数

科目の位置づけ
レポートの書き方を学ぶ基礎
演習科目の中の1コマ

科目のねらい
レポートに使える情報源の種
類と特徴, およびそれぞれの
評価方法を理解する

学習目標1

レポートでは, なぜ信頼できる
情報を利用しなければならない
のかを説明することができる

学習目標2

レポートに使える情報源の種
類と特徴を説明することがで
きる

学習目標3

レポートで使う際に, 使っても
よい情報と使ってはいけない
情報を基準によって見分ける
ことができる

学習の深さ(評価基準)

学習の深さ(評価基準)

学習の深さ(評価基準)

指導方法

指導方法

指導方法

評価方法

評価方法

評価方法

ステップ5 学習の深さの基準を考える

- 学習目標に対して、とてもよく学んだ学生はどのような行動をとるか、から、学んでいない学生（不合格）はどのような行動をとるか、までを段階にわけてみる

→ ルーブリックにつながる

科目名
対象
人数

科目の位置づけ
レポートの書き方を学ぶ基礎
演習科目の中の1コマ

科目のねらい
レポートに使える情報源の種
類と特徴, およびそれぞれの
評価方法を理解する

学習目標1

レポートでは, なぜ信頼できる
情報を利用しなければならない
のかを説明することができる

学習目標2

レポートに使える情報源の種
類と特徴を説明することがで
きる

学習目標3

レポートで使う際に, 使っても
よい情報と使ってはいけない
情報を基準によって見分ける
ことができる

学習の深さ(評価基準)

A
B
C
D

学習の深さ(評価基準)

A
B
C
D

学習の深さ(評価基準)

A 著者や作成者の権威, 内
容の適時性, 内容の信頼性
などを適切に十分に評価して
選択している
B 著者が不明なものなど明ら
かに不適切なものは含まれて
いない
C 評価した痕跡は見られる
が, やや不適切なものも一部
含まれている
D 一個人のサイトやYahoo!
知恵袋などの匿名のサイトな
ど明らかに不適切なものが含
まれている

ステップ6 指導方法を考える

- 決定した学習目標に到達するために、どのように指導(インストラクション)したら良いかを考える
 - ・レクチャー クイズ, 発問
 - ・グループワーク
 - ・個人でするワーク

最も適した方法とは???

楽しく学ぶ! ~して学ぶ!

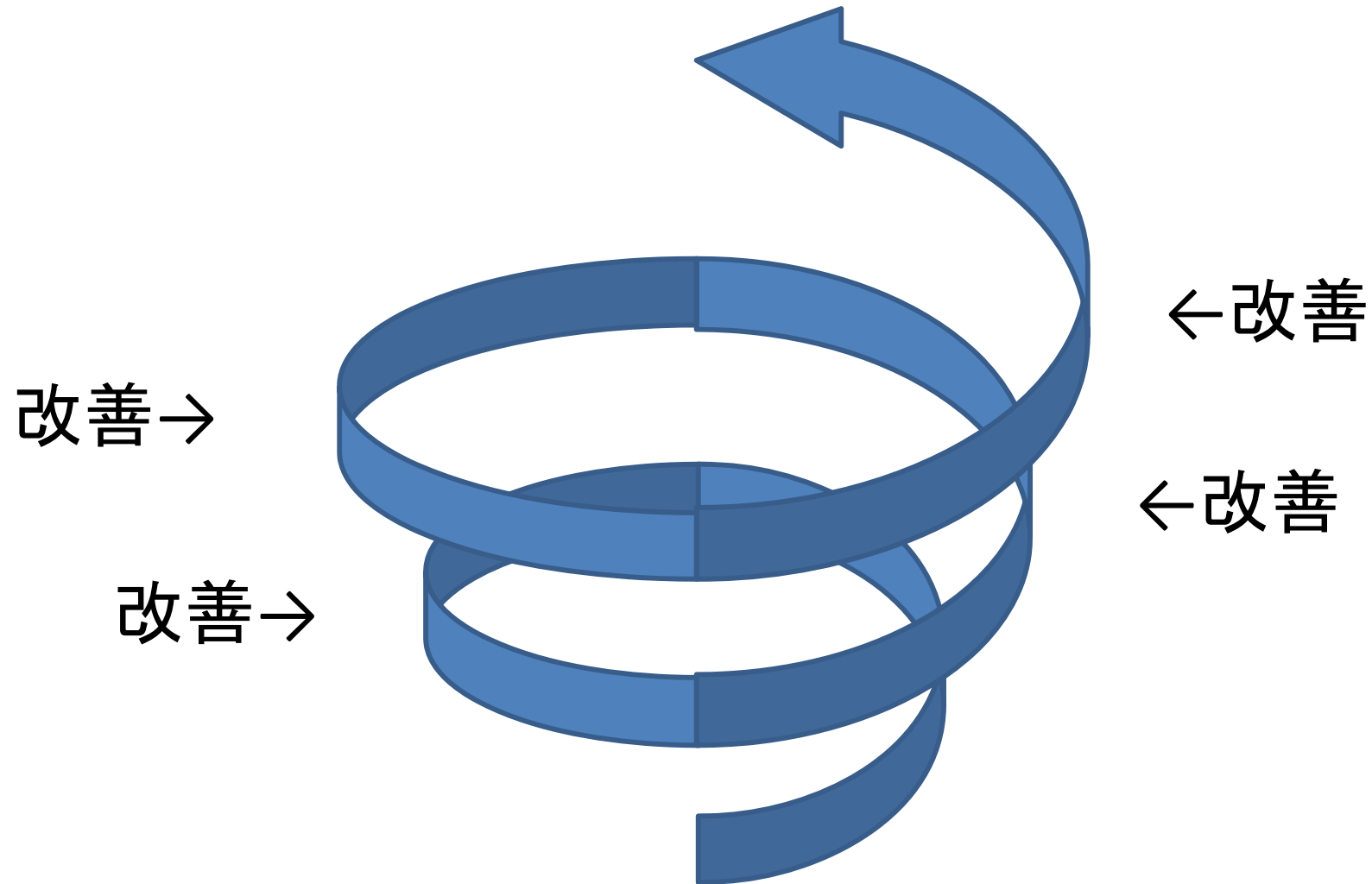
科目名 対象 人数	科目の位置づけ レポートの書き方を学ぶ基礎 演習科目の中の1コマ	科目のねらい レポートに使える情報源の種 類と特徴, およびそれぞれの 評価方法を理解する
学習目標1 レポートでは, なぜ信頼できる 情報を利用しなければならない のかを説明することができる	学習目標2 レポートに使える情報源の種 類と特徴を説明することがで きる	学習目標3 レポートで使う際に, 使っても よい情報と使ってはいけない 情報を基準によって見分ける ことができる
学習の深さ(評価基準) A B C	学習の深さ(評価基準) A B C	学習の深さ(評価基準) A B C
指導方法 レポートを書く際の作業の一 つとしての情報収集の意味の 解説と, 利用した情報の信頼 性がレポートの評価の対象と なることを解説	指導方法 レポートで使える情報源と特 徴を考えるグループワーク	指導方法 実際の例を使って, 使っても よい情報と使ってはいけない 情報を区別するグループワー ク
評価方法	評価方法	評価方法 ミニテスト 文献リスト作成課題+ルーブ リック



ステップ7 評価方法を決める

- それらをどのように評価するかを決める
- 知識(説明することができる) → テスト・レポート
- スキル(見分けることができる) → テスト・実践
- 高次のスキル(集めた情報を評価して課題に対して適切な文献リストを作成することができる)
→ レポートや観察
ループリック

らせん状の改善サイクル



ありがとうございました

Good Luck!